

平成30年度地震・津波防災訓練 (内閣府・静岡県・伊豆市)

実施報告書 (概要版)

静岡県伊豆市について

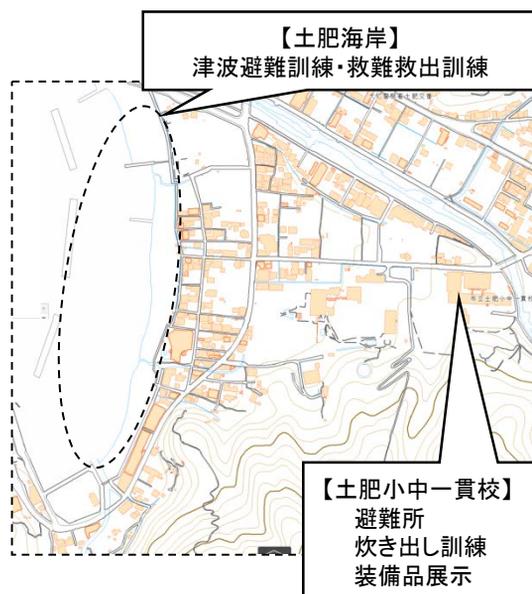
伊豆市は、伊豆半島の中央部に位置し、古くより温泉街が発展し、全国から観光客を呼び、修善寺温泉、天城湯ヶ島温泉、土肥温泉などがあります。

また、美しい砂浜を有する土肥地区は、夏季には海水浴客で賑わいます。

伊豆市では、安心して暮らせる持続可能で活力のある地域づくりのために「観光防災まちづくり」をきっかけ、平成29年5月観光防災まちづくり推進計画を策定し地区防災計画を作成する取り組みを進めています。

市内10箇所以上の地域で理解促進を図るための意見交換会等を開催するとともに、温泉旅館協同組合の情報伝達・確認訓練、のぼり設置、土肥こども園避難訓練、総合防災訓練、土肥金山連携訓練等津波避難訓練を実施してきました。

今回は、地区防災計画作成の参考となるよう、海水浴客やライフセイバーとホテル、市の土肥支所が連携した避難訓練を実施しました。



訓練概要

- 訓練想定：10月28日（日）午前10時20分、南海トラフ巨大地震が発生し、伊豆市では震度6強を記録し、地震発生直後より大津波警報が発表され、伊豆市の土肥地域には6分後に約10mの津波が押し寄せる見込みである。
- 実施日時：平成30年10月28日（日）10：20～12：30
- 主催：内閣府、静岡県、伊豆市
- 参加者数：約300名
- 参加機関：温泉旅館協同組合、観光協会、自治会、自主防災組織、土肥小中一貫校、海上保安庁、自衛隊、国交省、警察、消防

訓練の評価

訓練当日は、天候にも恵まれ、地域住民等による観光客エキストラ、温泉旅館協同組合（7個施設のホテル等）、市職員及び防災関係機関等、約300名が終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、内閣府訓練担当者の挨拶、伊豆市長の講評、参加者アンケート結果等を分析し、今後の防災対策や防災訓練の企画などの参考となるよう「課題」を整理した。

この結果、例年の防災訓練とは異なる訓練目的であり、「観光防災まちづくり」の機運が高まり、このような訓練の必要性を確信した。これを足掛かりに、土肥地区の地区防災計画を充実させて完成し、観光防災まちづくりの基礎を構築していく。

- 観光客避難訓練は、地域住民の協力及び避難施設であるホテル等の協力のもと実施した。実際の観光客で実施すべきとの意見もあり毎年恒例となるよう特別な意味合いを持たせた訓練を実施し観光の目玉とするのも一案である。
- 関係機関による救難・救出訓練については、見学のみであったが、高い関心が感じ取れた。
- 避難所運営訓練については、浸水地域外の住民による運営組織を確立し実施した。今後、このような体制での訓練を持続してもらいたい。
- 訓練日が休日であり小学生・中学生・高校生の参加が少なかった。

当日の訓練内容

10:20～10:23 シェイクアウト訓練

土肥地区全域を対象に自らの命は自ら守るという「自助」の取組みに重点を置いたシェイクアウト訓練を行った。観光客避難訓練時、地震発生と共にシェイクアウト訓練を実施した。

▼子供達



▼年配者



▼家族



10:23～10:30 観光客避難訓練

夏、海水浴に訪れた観光客が地震・津波の際、いかにして高い施設等に避難できるかを検証するため、観光客エキストラを避難所へ誘導した。誘導手段として国際信号機U旗及び発煙筒を使用した。

▼観光客エキストラとライフセーバー



▼避難開始



▼ホテルへの避難状況



10:30～12:00 救難・救出訓練及び避難所開設・運営訓練

海岸で海上保安庁・消防・自衛隊による救難・救出避難を実施。浸水地域外の住人が運営組織を確立し、避難所の開設・運営訓練を実施し、その後、避難者用品等の取り扱い要領について実習した。

▼救難・救出状況



▼避難所受付



▼各種イベント



11:00～12:30 炊き出し訓練、装備品展示

自衛隊による炊き出し訓練を住民との連携により実施した。また、災害派遣に来る自衛隊等の装備品を展示した。

▼炊き出し訓練



▼試食状況

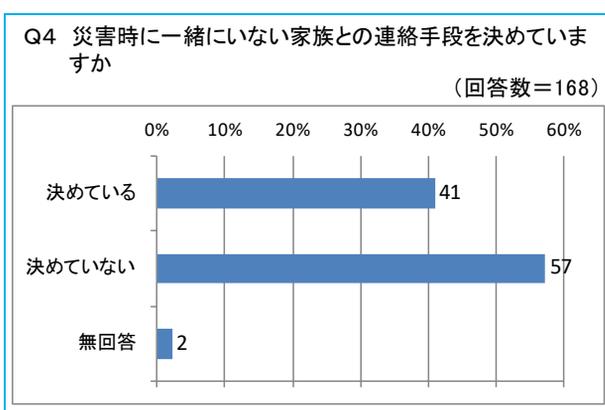
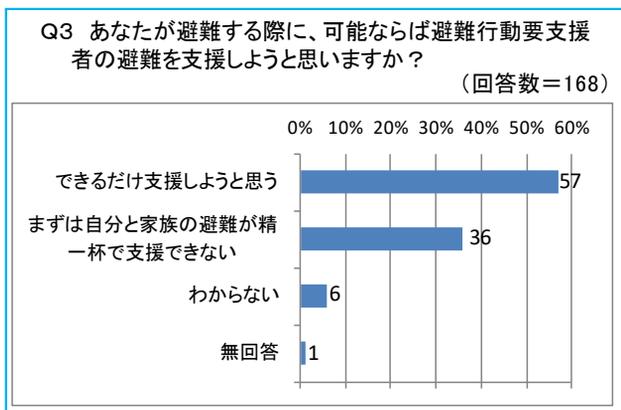
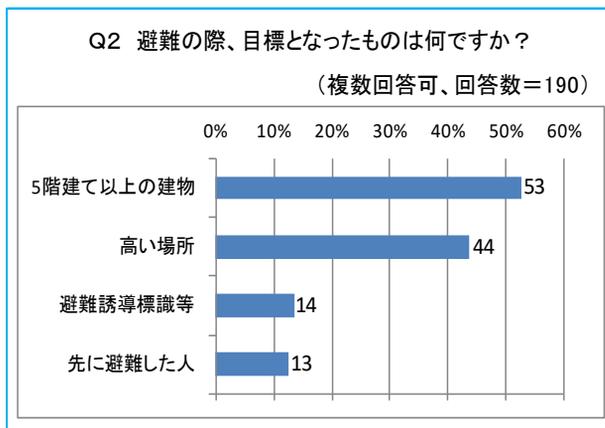
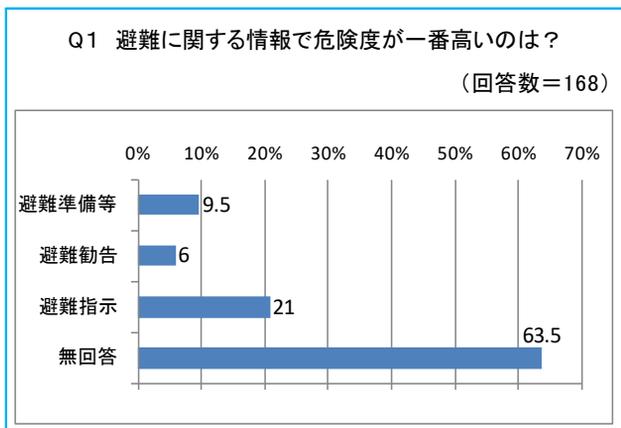


▼装備品展示



アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難訓練の状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。



※ Q2の補足説明：避難開始（海岸）時の避難目標であり、地震発生から3分後に大津波（10m）が押し寄せる想定である。

【自由意見】

- ・地震・津波訓練、市町村（地区）でもかなり頻繁に行ってほしい。もちろん自衛隊の方々もこのような訓練を沢山やって「地震の怖さ」を地域住民に知らせてほしい。
- ・もっと大勢が参加して楽しさもあるように企画してほしい。
- ・地元の人でなく、観光客に参加してもらわないと本当の意味がないと思う。
- ・観光客にも避難経路を簡単に把握できるようにしたいと思った。
- ・外来者は、どこに逃げたらよいかわからないので看板などが見えやすいと助かります。安全に逃げられると、土肥にも、また来たいです。

